

令和2年度 宮崎県立延岡星雲高等学校 学校評価

<p>学校経営ビジョン</p>	<p>【教育目標】生き抜く力を身につけた、新しい風を呼び起こす創造者として社会に貢献できる人材を育成する。 【経営ビジョン】「志の風」「美しの風」「創造の風」の校訓の下、地域に根ざす普通科高校として、生徒一人ひとりを大切にしながら、確かな人間性を育み、地域や保護者に信頼される学校づくりを推進する。</p>		<p>学校関係者評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は、指標等を基にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。</p>
<p>本年度の重点目標</p>	<p>1 『学力向上・進路実現』 ○家庭学習の確立と個に応じた指導を充実させ、キャリア教育を推進することで学力が向上し進路実現へとつながる。 2 『人間力の育成』 ○基礎力やコミュニケーション能力を醸成することで、豊かな人間性と社会を生き抜く力が身に付く。 3 『信頼と連携』 ○徹底したリスクマネジメントと迅速な対応により校内外の安全を確保しながら、保護者や地域への学校情報を積極的に発信することで、相互理解と連携が深まる。</p>		<p>※ 自己評価、学校関係者評価とも、A～Dの4段階評価とする。 A：期待以上 B：ほぼ期待通り C：やや期待を下回る D：改善を要する</p>
<p>重点目標</p>	<p>評価項目</p>	<p>取組内容</p>	<p>学校関係者評価 評価・具体的意見</p>
<p>1 『学力向上・進路実現』 ○家庭学習の確立と個に応じた指導を充実させ、キャリア教育を推進することで学力が向上し進路実現へとつながる。</p>	<p>① 学習（授業）改善（教務）（学・図） ② 学力向上（進路） ③ キャリア教育（進路）（学・図）</p>	<p>自己評価 成果と課題・改善策 今年度はコロナ禍の影響で授業中のグループ活動等が大きく制限されたが、2学期に実施した相互授業参観を通して、「主体的対話的な深い学び」の実現に向けた授業改善を学校の重点目標として職員間で共有するとともに、ICTの活用や共同学習、生徒間による相互評価等の主体的な学びの場が授業中に見られるようになってきた。また、生徒による授業評価を大幅に改善し、生徒の意見を「主体的対話的な深い学び」の実現に向けた授業づくりにフィードバックできるような体制に変更した。学期末には家庭学習調査を2回実施し、過年度や難関大学合格者との比較を分析提示し、生徒の学習実態を可視化させて教科指導や進路指導等に活用することができた。定期考査に対する意識を高めるための取り組みを学習委員会が計画実施したことは、生徒自らが学力向上について考え、今後の学習改善に繋がる大きな一歩になると考えている。 今年度から高校生向けの手帳であるNOLTYスコラを全学年で採用した。この手帳は、生徒が自らPlan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）を行い、自らの生活全般を改善していくことができる。家庭学習の時間管理だけでなく、ToDoリストを活用することで忘れ物が減ったという声も聞くことができた。週に1回程度、学級担任が手帳をチェックし、日々の生活や学習についてアドバイスもおこなった。課外について、1年・2年は土曜講座、3年は夕講座を上手に活用することで授業を補填し、学力向上につなげることができたのではないかと考える。また、2年・3年の模試は土曜日のみ終日で実施することで、日曜日の休暇を確保することができ、模試の復習をする時間をつくることができた。 コロナ禍において、各種講演会などが対面で実施する機会が減り、動画の視聴で代替することがあった。講演者が県外の方であったため仕方がないことではあるが、受講する生徒にとってはやはり対面での講演とは違ったようである。また、ふれあい看護体験などのインターンシップ関係もほぼ中止であった。そんな中、「進路ガイダンス」は関係企業の協力を得て、感染症対策を徹底しながら実施することができた。一部、リモートでの説明・講義の部分はあったが、生徒は自分の目指すべき学問や上級学校のことを関係の先生方から直接聴くことができ、有意義なものになったようである。</p>	<p>評価 B B B</p> <p>○学習については外部からは見えにくいこともあり評価はできないが、「生徒による授業評価」を導入し、授業作りにフィードバックできる体制は素晴らしい。 ○「学ぶことの意味」を考え、将来を見据えるためにキャリア教育を強化している点は中学校と同じベクトルで評価できる。コロナ禍での制限は仕方ないであろう。 ○「受験」の実現から逃れられない普通科系高校は、進学実績も無視できず学力向上が要求されるジレンマもある中で、「大人も学び続けなくてはならない社会」であることを前提に「学ぶことの意味」を考えさせたい。 ○コロナ禍の影響の中でもリモート学習等を取組により、今後の学習内容の変化や工夫がなされ、よい面も出て来ることに期待したい。 ○家庭学習量の調査を比較分析、実態の可視化とすることで生徒自身の進路実現に向けた主体的な学習の取組に繋がる。このような生徒自身の姿勢と授業改善が両輪となりうまく回るようになると学校全体の学力向上にも繋がっていくのではないかと。 ○「主体的対話的な学び」という内容が良く分からないが、「主体性」を持つことは勉強以外のことでも非常に重要な事だと思ふ。「自主性」と「主体性」の違いについて教えることも忘れずに行って頂けると理解が深まると思ふ。 ○学習実態の可視化は非常に良いアイデアだと思ふ。これで違いが解り、絶対値が同じになり、更に「中身」について考えられるようになればもっと良くなるのではないかと。 ○NOLTYスコラの採用は素晴らしい。出来る社会人は大体の人が使っている。特に学生はPDCAを何度も回して弱点を克服する必要があるので、社会人よりも有効なものではないか。 ○本当はキャリア教育を小学校から行って将来自分がどの様な大人になり、どの様な仕事をしたいのかを決めて学習進路を決めていくべきだが、日本の教育ではそうっていない。大学進学が主な目的となっているがその中でも職業をもっと意識できる体験を積ませて欲しい。学部・学科の選択が変わってくる学生が出て来ると思ふ。 ○大学入試改革への対応がしっかり行われ、授業改善のための相互参観授業、共同学習、生徒間の相互評価等が行われ、教師、生徒ともに質の高い授業作りを進められている。 ○コロナ禍の中で、学校に何ができるかを考え、リモートによる説明会等出来ることを実践していることは意味のあることである。</p>
<p>2 『人間力の育成』 ○基礎力やコミュニケーション能力を醸成することで、豊かな人間性と社会を生き抜く力が身に付く。</p>	<p>① 生徒指導の充実（生指） ② 人権・道徳・特別支援教育の充実（保・生支） ③ 部活動の推進と諸活動への積極的参加（生指）</p>	<p>「基本力」「自己管理能力」「コミュニケーション能力」を身につけさせ、素直でさわやかな生徒を育成する。 生徒理解・情報共有・統一指導により、いじめや2次障がいの防止と対応に努める。 通級による指導導入のための校内体制をつくる 保健・生徒支援部会との連携から、早期の問題解決の糸口を見つけることに全力を注いだ。また、リクエスト相談を学期1回定期的に実施し、悩みや不安に対応することで、いじめなどの防止にも役立つ効果があったと思われる。今後も、職員向けに生徒対応の研修や、通級に関する研修も行い、より丁寧で親切的な生徒理解を全職員行うことが出来る学校にする為が必要である。更に、人権に関わる問題については、引き続き指導していく必要があると感じた。来年度、講話等の機会を設け、生徒に実践的に理解できる場を提供していきたい。 部活動の加入率は例年通りで非常に高い。各々がそれぞれの目標に向けて積極的に活動している姿が多々見られる。今年度はコロナ禍の影響で様々な大会・コンクール等が中止になり残念であった。今後も見通しが立たない部分があるが、各々が前向きに取り組んでいるのが唯一の救いである。水曜日部活動完全休養日が浸透し、生徒にとってはいいリフレッシュになっている。今後は学習図書部と連携し、その日の使い方を有意義にするための仕掛けが必要であると感じている。</p>	<p>評価 B B B</p> <p>○生徒指導や部活動はそれぞれの教育的意義に加えて、キャリア教育と関連して「志」とは何かを知る教育も大切ではないか。今の子どもたちは読書量も少なく伝記なども読まなくなってきたりしている、歴史に残る大人の姿をもっと学ぶ機会が子どもたちにあればと思う。（参考文獻：「人生最後の日にガッツポーズをして死ねるたっぴひとつの生き方」ひすいこうとう著、月刊「致知」など） ○部活動等もコロナ禍の影響で厳しい制約（練習縮小等）余儀なくされたのでは。特に3年生最後の高校生活も充分な力を発揮出来ず残念であったが、今後の大学生活や社会生活に活かして頂きたい。 ○学校による生徒指導も大切であるが、生徒自身が1日の大半を過ごす学校で、ルール・マナーを「なぜ守らなければいけないのか」を考える事ができるようになって欲しいと思ふ。 ○部活動生にとっては、今年度は心残りの部分が多かったと思ふ。今後もコロナの影響を受けることが予想されるが、競技技術の向上だけでなく、人間力の向上も目指して前向きに取り組んで欲しい。 ○コミュニケーション能力って何だろうと思ふ。人との関わりを多く持つことで向上すると思ふますが、最初は挨拶からだと思ふます。爽やかに挨拶が出来れば会話が繋がると思ふます。良い指導だと思ふます。 ○②について解決するにはなかなか大変な問題だと思ふます。何か起こった時に隠さず真摯に受け止めて全員で問題を解決していくとする姿勢が大事だと思ふます。 ○コロナ禍で思うような活動が出来ていない状況だと思ふ。星雲高校は部活と勉学を両立させるとして更に進化していく手本になれることを望んでいる。 ○「部活動完全休養日」という発想は、我々の時代では考えられなかった事だが、ONとOFFを切り替えられる良いきっかけになるのではないかと。今後、休養日に何をやるのか？学生に考えさせることが大切だと思ふ。 ○挨拶、活気、交通ルールの遵守等生徒の良さが行動として現れており、生徒自身が考えて行動するなど、一人一人が星雲高校生としての誇りと自信を持っている証である。 ○通級指導導入のために校内整備が進められており、特別支援教育の充実が期待できる。</p>
<p>3 『信頼と連携』 ○徹底したリスクマネジメントと迅速な対応により校内外の安全を確保しながら、保護者や地域への学校情報を積極的に発信することで、相互理解と連携が深まる。</p>	<p>① 広報活動の充実（教務） ② リスクマネジメントと対応（渉・環）（保・生支） ③ 連携強化（渉・環）</p>	<p>学校説明会や随時申し込みのある学校見学等には例年同様100%対応した。中学校によっては3年生対象の説明会終了後に2年生対象にも実施してほしいと要望があり、説明者を替えて本校の魅力や別の視点からさらにアピールするなどの対応を行ってきた。また、学校案内パンフレットのレイアウトも昨年度同様さらに工夫しながら内容をコンパクトにまとめつつ、普通科とフロンティア科の対比、生徒の1日に密着したスケジュールの紹介など生徒目線で見やすい形にした。一昨年度から学校ホームページのリニューアルしたが、その改善についてさらなる内容の充実とともに継続的な運営の在り方についても引き続き検討しているところである。 コロナ禍において、学校における感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減させながら、生徒の学びが保証できるよう全職員で取り組んできた。今後も長期的な対応が必要であるが、随時新たな情報を取り入れながら対策を行っていききたい。 本年度は2回の避難訓練を実施した。1回目の地震による火災を想定した訓練は、コロナ禍のため1学年のみ避難経路確認の為に実際に避難したが、2・3学年は各クラスの経路確認にとどまった。2回目の津波を想定した訓練は、大武2区の住民との共同訓練を行うことができ、実際の被災場面での避難の課題点も見えてきた。今回の課題点を踏まえて、実際の被災場面に対応できる力を養う為の避難訓練の在り方について今後も検討していく必要がある。 昨年度まで半回発行していたPTA新聞を、今年度は学校ホームページに広報委員のページを作成し発信する形に変更した。こうすることで、保護者目線での校内の情報を随時更新することが可能になるため、今まで以上に情報を発信することができ、保護者だけでなく地域の方にも学校を知ってもらう機会が増えると考えている。今年度はコロナ禍のため多くのPTA行事が中止または実施方法を変更せざるを得なくなったが、6月の合同役員会や7月・9月のPTA職員交通指導、10月の入魂式など職員と保護者が連携して行う活動もできた。また、11月に実施した避難訓練を大武2区の住民と共同で行うことで、地域との連携を深めることもできた。今後は、ホームページの広報委員のページの内容を充実させると共に運営の在り方について検討していく必要がある。</p>	<p>評価 B B B</p> <p>○中学校への毎年の丁寧な対応は有り難い。また、県立高校が地域に目を向けていただけのも素晴らしい。高校は広範囲から通学するためその地区を意識する生徒ばかりではない難しさもあったと思ふ。 ○地域と連携した避難訓練を通して、各自が住む地域の避難の在り方などに発展させても地域貢献に繋がっていく要素があるのではないかと。 ○PTA新聞の発行からHPでの発信への変更など新たな取り組みも興味深い。一部の小中学校では欠席連絡を電話ではなく、QRコードをスマホで読み込むことでHPの欠席連絡欄にぶつ仕組みを試験導入している。 ○契約のある中であったが、昨年11月の津波避難訓練では、学校と地域の合同訓練が出来たことは非常に有意義であった。今後コロナ終息後、直接生徒さんの支援や介助を意識した合同訓練ができれば幸いです。 ○「連携」の視点は今後益々重要になると思ふ。学校だけでなく全ての教育を行うのは不可能であり、「家庭」「地域」「企業」「行政」あらゆる所と連携していくことで学校の可能性も大きく広がると考える。そのためには積極的に学校の情報を発信していただきたい。 ○外部と連携するという視点を生徒にも持たせ、星雲生として何ができるかという発信を考えても良いと思ふ。 ○星雲高校の魅力や情報を積極的に発信するためにも、小学生の学校見学会を実施するのいいと思ふ。それにより多くの保護者に感心を持ってもらえるのではないかと。魅力発信のターゲットは保護者です。 ○地震や津波などの自然災害が発生した場合、自分の子どもがどうなっているのかを心配する親が多い。学校にいて安全が確保でき、安心して任せてもらえる対策が必要。そのための訓練や連絡網の整備は必要。 ○学校の様子をネット配信することが出来ないかと考えている。学校の行事に直接参加できない状況でもネットで状況を把握できれば日頃学校に来られない保護者も手軽にアクセスしてくれるのではないかと。 ○リアルタイムでなくても参観日とか記念行事とかを学校のHPで配信してはどうか。出来るだけオープンでやれば、学校の魅力を発信できるのではないかと。 ○学校パンフレットが一新され、見やすく学校の良さがアピールできるものになっている。 ○コロナ禍の中での災害緊急時にどう対応するかが重要になってきている中で、公民館長等の協力を得て必要な訓練を効果的に実施しており、地域との連携強化が期待できる。</p>